

学年
通信

魂知輪

令和7年2月20日
第43号
小代中学校3年生
発行者:梅谷俊平

中学生最後のテストが終わりました



卒業まで、あと11日のカレンダーが黒板の前に飾ってあります。最後の日もう目の前でやってきました。3学期の期末テストが終わり、残すは公立一般入試のみとなりました。おそらく3年間で30回程定期テストや課題テスト、実力テストを受けてきました。思い返してみてください。一番点数が良かったのは何点でしたか。逆に、一番悪かったのは…。思い出すのも嫌だ、と思うかもしれませんが、今、最強の入試対策問題集をみなさんは手にしたことになります。国数英理社のテストが、中学校で習ったもののまとめです。もう一度見返し、出来ていなかった部分を復習することが入試対策の一つになります。

明日、中学校最後の道徳をします

3年生になって20回目を迎える道徳の授業です。高校には、道徳の授業はありません。公民の授業やホームルームでは、道徳的価値について考えたり、道徳的な見方をういたりすることがあるそうですが、実際の授業としては、おそらく、明日が最後になります。前回にも予告しました、坂村真民の『二度とない人生だから』という詩を扱います。

よく、「国語苦手だから道徳が…」という声を聞きます。その度に、国語的な道徳をしてしまっているのか、と私自身反省をしますが国語の授業と、道徳の授業では、【ねらい】が違います。道徳は、**自分ならそのことをどのように思うか、どのように考えるかの意見を持つことを求めます。**また、登場人物に**自分自身を投影させ、自分ならどのように考え、判断するのか、また、その判断理由についての考えを問います。**それが、国語と違い、道徳を5段階で評価しない理由だと思ってください。最後の授業で、たくさんの意見が飛び交うことを楽しみにしています。

Have to do it yourself!

この通信も、あと何号出せるでしょうか。思いついたことがある度、伝えたいことが出てくる度に通信を出してきましたが、残すところ数枚というところでしょうか。最終号は卒業式の日にしようと思っていますが、それまでもう少し頑張ろうと思います。

タイトルの通り、「あなた自身がしなければいけない」という話をしたいと思います。

自分自身でしなければいけないことの内容は、年齢に比例して増えてきます。ですが、何歳になったらこれは自分でしなければいけない、といった明確な基準はありません。これまでからある『何となく』を真似ているに過ぎません。みなさんは、これから社会に出ていく一人として、自分でしなければいけないことと、誰かの力を借りることを判断していかなければなりません。逆の言い方をすると、自分でしてはいけないことや、誰かの力を借りてはいけないことがあるはずで

一つ一つの判断を毎回する、というのは大変ですし、そんなこととしてられません。では、どうすればいいのか。

日頃から視野を広く、周りの物事に興味を持つことです。では、そのためにどうすればいいのか。

それは、【会話をする】ことです。今はICTが普及し、伝達方法が声よりも、文字になってきています。もちろん、文字に残せると、忘れることが減るので、伝えるということに関しては声よりも確実です。ですが、それでは視野が広がりません。相手の目を見て、直接話をするのが人と人とのつながりにおいて最も大切なことだと思います。実際、対面して話をすることに恥ずかしさを感じる人が増えているというデータもありました。ここは世の中の『何となく』を採用するのではなく、自分から、コミュニケーションがとれる人になってほしいと思っています。

